

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

2. 事業の概要

（1）期 日

平成29年8月16日（水）～18日（金） 2泊3日（日帰り参加可）

（2）参加者

① 募集対象・人数

小学校教諭（中学校教諭も受講可）・24人

② 参加人数

32人

（3）講師等

① 【講義1・実習1】「体験活動の導入とその指導法」

内容：ねらいに応じた体験活動の計画の仕方や指導のポイントを理解する講義・実習

指導：国立吉備青少年自然の家 次長 高藤 佳明

② 【実習2】「カッター活動の教育効果と実習」

内容：吉備のフィールドを利用した体験活動や教科での学習を通して、子供同士の関係を深めるための指導法を学ぶ実習

指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職 瀧田 正宏

③ 【講義2】「体験活動の意義と学習指導要領」

内容：子供の現状を踏まえ体験活動の必要性和教育効果、また、教育課程における「体験活動」の位置づけに関する講義

指導：國學院大學 人間開発学部 教授 杉田 洋 氏

④ 【講義3】「教育の現状と課題」

内容：子供をとりまく現状から、現在の教員が期待されていることに関する講義

講師：岡山県教育庁義務教育課 課長 福原 洋子 氏

⑤ 【実習3】「火起こし体験と野外炊事の理論と実践」

内容：達成感のある原始の「火起こし体験」を体感するとともに、野外炊事を
通して子供への指導技術、安全管理の視点等について理解する実習

指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職 佐藤 泰之

- ⑥ 【実習4】「オリエンテーリングの指導法と実践」
 内容：「オリエンテーリング」を活用し、集団と個の関わりについて意識づけを明確にするなど実践的な指導方法を習得する実習
 指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職 瀧田 正宏
- ⑦ 【講義4】「集団宿泊体験活動の企画・運営」
 内容：国立吉備青少年自然の家で宿泊体験を実施している小学校の取組から意義や指導のポイント、その効果等を理解する講義
 指導：国立吉備青少年自然の家 所長 越宗 倫生

(4) 企画・運営のポイント

- ① 講義や実習などの体験の中で、アイスブレイクを行うとともにグループでの話し合いや振り返りの時間を数多く設けて、「仲間づくり」を意識した内容の運営を行った。
- ② 今まででは参加者は宿泊を原則としていたが、昨年度の反省からより参加者のニーズに応える為に日帰り参加も可能として、参加者を募った。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
8月16日(水)	受付	開講式	講義・実習 「体験活動の導入とその指導法」	屋食・休憩	実習 「カッター活動の教育効果と実習」			講義 「体験活動の意義と学習指導要領」	夕食・休憩	入浴・休憩	情報交換会	就寝準備	就寝	
8月17日(木)	朝食	講義 「教育の現状と課題」	休憩	実習 「火起こし体験と野外炊事の理論と実践」			休憩	実習 「オリエンテーリングの指導法と実践」		夕食・休憩	入浴・休憩	自習・休憩	就寝準備	就寝
8月18日(金)	朝食	片付け・移動	講義 「集団宿泊体験活動の企画・運営」	休憩	屋食・休憩	評価 「履修認定試験」	閉講式							

(2) 活動の状況



【体験活動の導入とその指導法】



【体験活動の導入とその指導法】



【体験活動の導入とその指導法】



【カッター活動の教育効果と実習】



【体験活動の意義と学習指導要領】



【教育の現状と課題】



【火起こし体験と野外炊事の理論と実践】



【オリエンテーリングの指導法と実践】



【オリエンテーリングの指導法と実践】



【集団宿泊体験活動の企画・運営】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 体験と講習内容がとても良かったです。特にカッター、オリエンテーリングでは、指示出しに今後活かせると思います。
- ② この研修は皆さんと一緒に頑張ろうと思わせて頂く内容でしたので、とても明るく取り組むことができました。
- ③ 体験学習の大切さを改めて感じました。これからの宿泊学習の参考になりました。
- ④ まだ幼い子供がいるので宿泊しにくいいため、日帰りができて有り難かった。
- ⑤ 宿泊すると日帰りの方に比べて、より親睦が深まりました。
- ⑥ (宿泊か日帰りかは)それぞれの事情があるので限定せず、選択することができる今年度のシステムは良かったと思います。

(3) 成果

- ① 参加者は講義の中で学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、実際の体験の中で体験活動の意義を実感することができた。
- ② 今年度は日帰り参加も可能として参加者を募ったところ、定員を大きく上回る参加希望者を集めることができた。

(4) 今後の課題

内容も参加方式も、参加者のニーズに応えたものであったために、満足度は非常に高かった。過去の参加者からの評価を聞いて、申込みをする参加者が多かったことから、募集チラシを作成して参加者の声を発信していく必要がある。

担当:企画指導専門職 佐藤 泰之